

短歌

令和六年度阿南市文化祭
秋季短歌誌上大会選

互選賞入選

生み終へて母犬そつと仔犬舐むきのふの眼より
優しき目をす 喜来富士子
摺むもの無ければ何でも摺みます獣除け網を登
りゆく爪 中原きみ子
薄くうすく茗荷を刻む夕間暮れわたしは何を
待つてゐるのか 松尾 初夏
酷暑にてミストのシャワー浴びる如心に沁みる
中也のボエム 佐野 智子
落ちてゆく夕日の華も淋しかり老いへ傾く私の
確かさ 西條 悦子

特選

お初穂と寺へ届ける今年米我が家の今和尚と
語る 車田マサ子
冷凍を解かれしさまに天平のロマン馨わし正倉
院展 吉形 和恵
自分への不満つぎつぎ溜まりきて秋刀魚の骨が
ひどくうるさい 亀島賀陽子
嫁ぎても実家の米を食べてきた今年限りと米寿
の義兄が 原 美智子
君は右、吾は左の手袋を外してつなぎし紅葉の
祖谷路 中山 善嗣
朗読は市原悦子が好きである老いの感性操るよ
うで 小畑 定弘

俳句

阿南市俳句連合会選

名園に投句箱あり冬紅葉
風やきつねうどんの揚げの味
風邪気味に計る体温平常値
老いの母爪切る日向小鳥来る
短日や犬の首輪の反射光
読経と踊る大根大根焚き
言えぬこと腹におさめて息白し
音もせず物干し竿に時雨跡
冬日和「翔平」の笑顔世界の灯
湯たんぽや抱へて寝ても蹴り出され

柏木 暁代
中分 明美
近藤ヤス子
金本ひろみ
吉崎 晶子
張本 雅宣
東明 陽子
森 伸
藤崎 恵竹
久米 浩一

川柳

阿南川柳会 選

孫生まれ釣り師の意地で鯛を釣る
高いねえ野菜売り場で立ち話
笑み求め賑やかシニアサロンの場
赤色を足して後期の絵を仕上げ
妻と言うよりも今ではほぼ姑
帯ゆるくお腹にゆとり食事会
三才の理屈に手も足も出ない
なぜ悪いあなたの為としたことが

一般応募

産湯浴びガツポーズを天に挙げ
お犬様主人従え散歩する

神野 鈴代
佐藤つたえ
篠原 良子
鈴木レイ子
高木 旬笑
野口 吾朗
野村 敏子
若木アヤ子
島尾美津子
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

早春即事

寒氣時和雪後天
早梅漸發短垣邊
遊禽相喚如人語
暫去還來花朵前

早春閑適

林下漸春迎幼鶯
梅花初發數枝橫
賞心朝夕澹然境
邊邑閑居詩思清

某大將を嘲る

赧忘經世故園蕪
彈道弄來驕子娛
飲食豐香肥我腹
厚顏識否庶民懼

大地 和子

寒氣時に和らぐ雪後の天
早梅漸く発く短垣の辺
遊禽相喚んで人語の如く
暫く去つて還来たる花朵の前

大野シゲ子

林下漸く春にして幼鶯を迎え
梅花初めて発いて数枝横たわる
賞心朝夕 澹然の境
辺邑の閑居 詩思清し

田中 公

赧らくは経世を忘れて故園蕪る
彈道弄び来たるは驕子の娛み
飲食豊香 我腹を肥やし
厚顏識るや否や庶民の懼するを

